【 12 】

氏　　名	岡　田　康　伸（おか だ やす のぶ）
学位の種類	教　育　学　博　士
学位記番号	論　教　博　第　22　号
学位授与の日付	昭和55年5月23日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	箱庭療法に関する研究
論文調査委員	（主査）教授 河合隼雄　教授 梅本堯夫　教授 和田修二

論　文　内　容　の　要　旨

本論文は，箱庭療法 (Sandspiel) について理論的考察を深めるとともに，その心理学的な基礎を明らかにする研究を行った結果をまとめたものである。箱庭療法は，1929年に Lowenfeld によって「世界技法」(The World Technique) として創造された。

これは，その後二つの流れに分かれて発展する。すなわち，Bühler によってアメリカにもたらされ，世界テストとして，診断を重視したテストとなるが，他方，スイスの Kalff によって Jung による分析心理学の理論と結びつき，もっぱら，治療に重点をおく，Sandspiel（箱庭療法）として発展する。カルフよりこの技法を受けついだ河合は，1965年にこれを日本に導入するが，その後わが国において心理治療の技法として著しい発展をとげた。アメリカにおける世界テストの研究は，その後あまり展開をみなかったが，治療技法としての箱庭療法は，その後多くの事例研究の集積によって，その有効性が明らかにされてきた。しかしながら，実際的な使用が先行し，その理論的反省がおろそかにされ勝ちな傾向があり，その点を明確にしようとしてなされた研究の結果およびそれに関する考察をまとめたものが，本論文である。

理論編は，第1章より第3章までからなり，先に述べたような箱庭療法の発展の歴史およびそれに関する理論的背景，箱庭療法の技法の詳細，および他の類似の技法との比較においてその特徴を明らかにする。本論文においては，箱庭療法が，日本にもたらされたことは，単に心理療法の一技法が導入されたというのみではなく，治療活動の意味や意義など，心理治療全体に影響を与えた点が論じられている。特にこの技法がヨーロッパにおいては，もっぱら，Jung の分析心理学と結びついているのに対して，わが国においては，Rogers による来談者中心療法の考えを基にしつつ，そこに分析心理学的な象徴理論を入れこんでくる方法がとられ，それは，一面過渡的な現象とさえ考えられてきた。しかしながらこれは，いわゆる過渡的現象として消え去るものではなく，独自の技法をもち，日本人特有の感性とも関連してますます，わが国に根づき，発展してゆくという考察が述べられている。

次に，箱庭療法の治療的要因として，考えられることを，Kalff，Neuman，河合らの説を紹介しつつ①治療的人間関係の確立とその深化　②カタルシス（浄化）　③自己表現　④自己治癒力の働き，の4点

にまとめて記述している。

基礎的研究編は，第4章より，第8章にいたるものであるが，ここでは，箱庭療法の基本を考える上に必要と思われる研究と，その結果が詳述されている。第4章「作品の分析—年齢差を中心として—」においては，箱庭療法の作品について，年齢別，性別による特徴を統計的に示している。結果は，例えば，制作時間は，大体20分前後であり，高校生群（24分）が一番長く，小学6年生群（12分）が一番短かかった。また制作し始めるのには，30秒以上を要し，年齢とともに砂に触れる人数が増え，作品の立体的構造が明確になる傾向があった。使用玩具の特徴としては，植物類は，年齢とともに多く使用され，乗り物類は小学3年生群では多く使用されるが，小学6年生群から減少するなどが明らかになった。第5章は「箱庭療法の診断的側面について——SD 法を中心としたひとつの試み——」の研究について述べられる。これは，箱庭療法の診断的側面についての研究であり，SD 法を用いて，箱庭の作品に関して，6次元（動的統合型，動的非統合可能型，硬直型，貧困型，静的統合型，積極的防衛型）を抽出した。その結果，正常群は，動的統合型のグループに，異常群は，積極的防衛型のグループに属する作品が多いことが見出された。第6章は，「イメージに関する研究——動物イメージに関する一研究——」であり，イメージ質問法(Image Question) を用い，これに SD 法を援用して，箱庭療法によく用いられる動物が，イメージとして，どのような意味をもつかを明らかにしている。第7章，「作品の左右性について」においては，作品の右，左における空間のもつ意味を明らかにしようとしたが，仮説を支持する結果は得られなかった。第8章「テーマ分析——道・流れ・川の意味——」は箱庭の作品によく現われるテーマ，道，流れ，川について，実際例を多く示しながら，その象徴的意味を論じたものである。以上の5つの研究によって，箱庭療法の作品がもつ心理学的な意味を，統計的，実験的，象徴的などの諸側面から実証的に明らかにしたものである。

論文審査の結果の要旨

箱庭療法 (Sandspiel) は，1929年に Lowefeld により創始された心理療法の一技法である。1965年に河合によって，わが国に紹介されて以来，今日に至るまで実際的に有効な方法として急激に発展してきた。しかしながら，その理論的基礎や，数量的，客観的な資料は，極めて乏しい状態にあった。本論文は，そのような，今まで閉却されてきた，箱庭療法の側面について，研究や資料の収集を行い，その発展に寄与した価値ある労作である。

理論編においては，箱庭療法の発展過程について，概観をのべながら，この技法のもつ意義と特色を明らかにしている。特に新しい考察を展開した部分は，箱庭療法がわが国の心理治療の発展に寄与した面を明らかにし，これを単なる一技法の導入としてのみ受けとることなく，わが国における心理治療技法研究の全体的な発達の流れの中に的確に位置づけていることである。わが国の臨床心理学者は，Rogers の来談者中心療法の影響を強くうけていたが，それが精神分析的な治療へとつながってゆくための橋渡しとして箱庭療法が有効な，はたらきを示したという論述は，興味深いものである。なお，この技法が，そのような橋渡し的役割をもちつつ，それは過渡的現象として，消え去るものではなくむしろ，人間の内界を視覚像として，表現する有効な方法として今後も重要な意味をもって存続してゆくとの観点も妥当なものと思われる。治療の要因としてのべられた治療者・患者関係およびそれに介在する作品の意味の考察は，教

師・生徒などの教育的人間関係の意味を明らかにするものとしても極めて示唆するところ大である。ただ，人間の創造的表現活動のもつ意味について，およびそれがもつ，治癒力についても人間学的に掘り下げた考察に欠けるうらみがある。

基礎的研究編は，本論文の特色をよく示している。すなわち箱庭療法が実際的な技法としてあまりにも早く発展しすぎ，その基礎的な面における資料がほとんど無いといってもいい状態のときに，箱庭療法の作品がつくられる際の一般的傾向，年齢差，性差などを明らかにする資料を集積し，統計的検討を行い，また，実証的な研究をなしたものである。年齢差による作品の数量的分析は，箱庭療法の基礎的資料として，価値あるのみならず，児童，青年の心の発達過程を明らかにするものとして価値を有している。ただ被験者の層をもう少し厚くすることが望ましい点が指摘された。箱庭の作品がイメージの表現としてもつ意味やその型を明らかにしようとしてなされた実証的研究は，ユニークなものであり，高く評価されるべきである。作品の左右性についての研究は，着眼としては，興味深いが，実験に使用した作品の左右性のもつ意味において最初にあまり考慮しなかったことが欠点として指摘された。

箱庭のテーマを実際例を示しつつ明らかにしてゆく研究は，このような表現活動を通じて心理治療を行う技法を検討してゆく上においての今後のひとつの方向性を示すものとして高く評価される。

本論文は上述のように，今まで閉却されてきた研究分野をひらいたものとして，価値の高い研究であると考えられる。また，実際的な有効性に頼って用いられている心理療法の技法を数量的，客観的に検討する方法を示した点においても意義深いものである。ただ筆者自身も自覚しているように，このような客観的研究と，治療の実際において，感じられる問題意識とのギャップは，広く，今後ともそれを埋めてゆくための努力を続けることが必要であろう。心理療法が人間という全存在を相手として行われるものである以上，この技法の検討は必然的に人間存在そのものについて，教育学的，哲学的な考察を深めることを要求するものであり，その点については，なお掘り下げてゆくべき領域を残していることが指摘された。

ただそれを本論文の範囲内において期待することは，やや過重であり，むしろ著者の今後の課題として考えるべきと思われる。

よって，本論文が教育学博士の学位論文として価値あるものと認める。